

職員による自己評価

A 環境面

・環境整備（バリアフリー化）、体制（職員数）が適正か、どちらとも言えない

B 児童への支援内容

・適切な支援の提供ができている

C 関係機関との連携

・放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもとの交流がない

D 保護者への説明責任・信頼関係

・保護者同士の連携の機会があるか、どちらとも言えない

E 非常対応

・適正だと感じる

保護者による評価

A 環境面

・職員の専門性まではわからない

B 児童への支援内容

・障害のない児童との交流があるのかわからない

C 事業所からの情報発信

・保護者同士の連携ができているのかわからない

D 非常対応

・適正だと感じる

事業所内での分析

【共通点】

- ・自事業所外の児童とのかかわりが少ない
- ・保護者同士の連携の機会があるのか不明
- ・非常時対応は適正だと感じる

【相違点】

- ・環境、職員体制が適正か不明（保護者は感じていない）
- ・職員の専門性がわからない（職員は適切な支援ができていると感じている）

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- ・支援に関して保護者より満足いただけている結果があり、日々の活動プログラム・支援は適正に行えていると感じる。また、職員も、自信を持って支援ができています。
- ・避難訓練の定期実施など、非常対応においても職員・保護者ともに満足いただいている。
- ・職員配置においては、事業所はやや不十分だと感じる声もあったが、保護者は不満を感じていないことから、よく連携が取れているものと思われる。

事業所の改善点

- ・職員の専門性を知っていただくためには、書面や口頭できちんと保護者に支援の過程や目標地点、伸びている部分など細やかに共有していく。
- ・保護者同士の交流については定期イベントなどで機会はあるが、相互連携については不透明な箇所あり、イベントの内容・目的を再検討していく。
- ・他の団体との交流については、感染症の状況をみながら、どのようにしたらかわれるか検討していく。

事業所の改善への取り組み

<職員>どの職員が対応しても適切な支援・助言ができるよう専門性を高めていきます。

<地域連携>定期的なイベントの企画などを通して、外部との接点を積極的に持てるようにします。主に「さくらまつり」や「収穫祭」など、近隣の他事業所などにも積極的に声掛けをおこないます。

<保護者への情報発信>書面や口頭で積極的にコミュニケーションを図り、日々の支援の状況を知っていただけるよう努めていきます。また、保護者参加型イベントについては、保護者同士の交流が持てるよう企画していきます。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今回、【鶴ヶ峰もえぎさくら】へ多数のご意見をいただき、ありがとうございました。改めて事業所として足りていない部分・改善すべき点について考える機会となりました。支援においては、おかげさまでご満足いただけている結果を受け、大変嬉しく感じております。職員教育・情報発信においては改善を図り、皆様の期待に応えられるよう努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

事業所名 鶴ヶ峰もえぎさくら

担当者 佐藤 真理子